

めぐみの糧

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」
（マタイ4章4節）

「広さ、長さ、深さ、高さ」

湯浅 修

「すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどあるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができま

すように。」
昔、ナポレオン軍の兵士が、監獄のドアを開けたとき、スペイン軍人の骨を発見しました。暗い牢獄にあり、長い時間に、肉も皮もすべて失われ、骸骨のみが残りました。足首の骨には、鎖が結ばれていました。壁には、鋭い金属で、ある形が刻み込まれていました。それは、スペイン語で書かれた「十字架」でした。



この兵士は、決して生きて出ることのできない監獄の中で、何を思い、何を考え、十字架を描いたのでしょうか。今日は、イエスキリストの十字架に象徴される、神の愛について、この兵士と共に、考えてみたいと思います。

十字架の愛は、第1に

一・広さ

「すべての人を愛する愛」です。神（イエスキリスト）の御前では、すべての人が平等に愛されています。この愛は、この世界に現存するあらゆる差別（人種、階級、性差）を超越します。イエスキリストの十字架の死と復活は、信じるあなたに永遠のいのちを与えるに十分です。

「神は、すべての人が救われて、真理を知ようになるのを望んでおられます。神は唯一です。（中略）キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。」
（第2テモテ二章）

十字架の愛は、第2に

二・長さ

「疲れを知らない愛」です。スボルジョンという牧師が、友達と一緒にイギリスの農村を散策した時のことです。すると、彼は一軒の農家の屋根の上に、風見鶏があるのを見つけました。そこに書かれてある文字は「神は愛なり」でした。

スボルジョンは、友人に言います。「あのような場所に、あのようなことばは、少しおかしくないかね？」
風見鶏は、すぐに変化してしまふ。しかし、神の愛は変わらないよ。」
友人は、答えました。

「私は、君の言うことには賛成できないよ。君は誤解しているようだ。あの風見鶏は、こう言っているんだ。『風がどちらから吹いてきても、神様は愛です』」

人は、一人の人を、いかなる時にも、変わらず、愛し続けていくことには、疲れ（果て）てしまいます。個人差はありますが、これが人間の愛の限界です。あなたを愛する神の愛は、決して倦み疲れることがありません。

「主は遠くから、私に現われた。『永遠の愛をもつて、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。』（エレミヤ三十一章）

十字架の愛は、第3に

三・深さ

「人知では計り知れない愛」です。

昔、ノルウエーの探検家ナンセンは、ある時北極海の一帯深い場所を測ろうと試みましたが、以下は、彼の日記の一部です。

第1日 一番長いロープを使用した、底まで届かず。

「この海は、これより深い」

第2日 ロープを足したが、これまた、届かず。

「この海は、これよりも、もっと深い」

第3日以降、次から次へとロープを足して計測続行したのですが、結局、計測不可能のため、そこを去らねばならなかったのです。ナンセンが悟ったすべては、

「この海の深さは、私の計測能力をはるかに越えていた。」と、いうことでした。

翻つて、神の愛の深さは、我々の計測能力をはるかに超えています。

F・M・レーマンという男性は、カリフォルニア州で、何トンものレモンやオレンジを担いで、船に積み込むという、厳しい肉体労働をしていたクリスチャンでした。彼は、自分の「永遠のいのち」をいつも喜んでおり、神の愛についてのメッセージを聞いた日曜日の夜などは、なかなか寝付けなかったようです。そして、レーマンは、仕事の合間に、レモンの箱に座り、神の愛についての歌を書いていた人でもありました。神の愛を歌った中に、次のような歌詞があります。

”大空を紙とし、海原（うなばら）をインクとし、木の枝を筆とし、世人を集めて、神の愛を記したとしても、海の水は涸れて、あの大空の紙も足りないだろう。”

十字架の愛は、第4に

四・高さ

「愛する者の為に犠牲を厭わない愛」です。

昭和の初期に、山本忠一という知恵遅れの子どもがおりました。幼い頃に、脳膜炎を患い、親に捨てられ、乞食をしていた時に、升崎外彦という牧師に拾われて、彼の学園に連れてこられました。朝になると大きな地図を布団に描く。何の取り柄もないと思われたが、ただ一つ誰にも負けない特技がありました。それは、指で、はえを捕まえること。百発百中。左手と左足で調子を取り、バットと取る。まさに神業でした。

アホ忠とあだ名され、それ以後「アホ学園」と呼ばれ、「もし、忠やんが出ていかないならば、僕たちが出ていきます。」と言って、前途有望な青年も去つていったこともしばしばでした。

めぐみバプテスト教会

東京都多摩市永山6-2-5永井ビル2F

多摩ニュータウン通り
多摩センター駅 京王 小田急線
鎌倉街道
バス停 瓜生
めぐみバプテスト教会
デイリーヤマザキ
本ブックオフ
尾根幹道

Tel. 042-374-2311
FAX 042-374-2311
木曜日 夜 7:00～8:30 祈り会
日曜日 朝 9:30～10:25 日曜学校
10:45～12:15 礼拝
牧師: 湯浅 修(ゆあさおさむ)
メール: qrdgp763@ybb.ne.jp
携帯Tel: 080-5053-9206 (湯浅)
ホームページ:「めぐみバプテスト教会」と検索ください

ところがある日、忠ヤンの行方がまったく分からなくなりました。昔の放浪癖のせいもあつたのでしようが、八方手を尽くしたが、見つからなかつたです。それから数年後の昭和十四年。一人の紳士が升崎牧師を訪問。

男：「あなたは何年か前に、山本忠一という子どもを御世話くださった升崎先生ではありませんか？」

升崎：「おお、あなたは忠ヤンの消息を御存知ですか。今頃どうしていますか？ 機帆船に乗っているとか聞いていましたか？」

男：「実はその忠ヤンが立派な働きをして死にました。これが忠ヤンの形見です。」

その紳士は、そう言つて舵輪を差し出した。彼は忠ヤンの乗っていた船の船長でした。男：「ある日機帆船、幸十九は荷物を満載して尾鷲港を出ました。出帆後間もなく、海が急に如く動かず、暗礁に船底をぶつけてしまいました。破れた船底から勢いよく浸水して、いくら排水してもどうにもなりません。もうこれまでと一同観念した時、船底から

と、親方親方！ 船を船を！」

見れば忠ヤンです。不思議にも水はあれからすこしも増していない。船員たちは再び必死になつて、水をかい出したところ、忠ヤンは船底の穴に自分の太股をグツと突つ込み、必死にもがきつ、船を船を、早く早く陸に揚げよ！」

と叫んでいました。それで船員たちは遮二無二、船を進めて陸に近づけ、九死に一生を得ました。しかし、忠一は可哀想に右太腿をもぎ取られ、出血多量で上陸するまでに息を引き取りました。」

人から「アホ忠、アホ忠」と呼ばれ、自分もまた「アホ忠」が本名だと思ひ込んでいた山本忠一。水がふきこんでくる船底の穴に、布きれや板きれのかわりに自分の肉体の一部をつめこみ、数名のいのちを救つた山本忠一。山本忠一の犠牲の死を覚え、屋根高く、舵輪は飾られたのです。

「人がその友のために命を捨てるという、これより大きな愛は誰も持っていない。」

これは「アホ忠」が覚えた、たつた一つの聖書の言葉です。イエスキリストの十字架の神髄が見事に、このことばに凝縮されています。

「キリストを救い主と受け入れて・・・」 (めぐみバプテスト教会 婦人O.Y)

今、私はイエス様に出会えた事に感謝し、喜びで一杯です。

私はキリスト教主義の幼稚園、中学校、高校を卒業しました。若い時は全く魂に飢えを感じず、傲慢な思いで「神様は、本当にいらっしゃるのだろうか？」という気持ちでしたが、結婚、出産、子育てをしている喜び、苦しみの中で少しずつ「きつといらっしゃるに違いない」という思いに変わってきました。そして、子供達にもイエス様の話や「主の祈り」等を教えてきました。

息苦しい日々を過ごしていたある日、自宅ポストに「人はたいてい全世界を得ても命を損じたら何の得がありましょう」(マルコ8:36)と書かれためぐみバプテスト教会の案内書が入っていました。それを見た時、「本当に救って下さるのはイエス様しかない。そしてもっとよく知りたい。いつかこの教会へ行こう」と心に誓い、大切に持っていました。その後、娘が会社の人間関係の事などの悩んでいた時に、娘に「イエス様は、”すべて疲れた人、重荷を負っている人は私のところに来なさい。私があなた方を休ませてあげます”と言っているよ。この教会に行くといいよ」と勧め、娘が先に教会に参りました。「キリストの愛の手に導かれて歩み、喜びにあふれた人生に変えたい」と祈っていた時、「今、救われなければ手遅れになる」という神の声に強く迫られる感じがして、娘の勧めに従い、娘より半年遅れて、教会に参りました。

そして、先生に「罪」の意味を教えてください「義人はいない。一人もない。」(ローマ3:10)という御言葉をいただきました。私をはじめとして、人間はいかに罪深く、弱く、愛が無く、そして虚しい存在であるかと思ひ、そして「私は何も悪い事をしていないのにどうして?」という考えのなんと高慢・自己中心的で、神に背を向けた生き方であったかと思ひ、自分の罪を悲しんで、神にゆるしを請う必要を感じました。イエス様が私の罪の為に十字架で死んで下さった事に心から感謝し、イエス様だけが唯一の救い主である事を信じ受け入れる事ができた瞬間、心に平安がずっと入ってくる感覚を覚えました。

その時与えられた聖句が「私はあなたがに平安を残します。私はあなた方に私の平安を与えます。私があなた方に与えるのは世が与えるのとは違います。あなたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」(ヨハネ14:27)

あれ程、重たかった心が不思議な感覚に包まれ軽くなり、心の中にぽつと明るい灯がともし、うれしい新しい心が生まれました。永遠の命が約束されているという希望が満ちてきました。

「主はその愛する者を懲らしめ、受け入れる全ての子に鞭を加えられるからです。訓練と思つて耐え忍びなさい。神はあなたを子として扱っておられるのである。」(ヘブル12:6)。神様はその人を愛するがゆえに最も辛い所に立たせ、赤々と燃え立つ溶鉱炉で、鉄に焼きを入れるかのようにその人を変え、ご自分の愛する子供として用いられるという事を習いました。私が神から訓練を受ける時は、まさに子として受け入れられる時であり、その苦しみを通じて神の御心が示される時と考え、この聖句を私の慰めと励ましとし、祈り続けたいと思います。たとえどんな信仰生活でも、決して神から離れることなく、神を信じ、神に焦点を合わせ、神を拠りどころとして、キリスト者として「イエス様は救い主である」という事を伝えていきたいと思ひます。

めぐみバプテスト教会のご案内

毎週日曜日 礼拝10:45より、礼拝があります。共に讃美歌を歌い、共に祈り、共に聖書のメッセージを聞きます。

礼拝は、疲れた魂を癒し、再び活かしてくれます(*教会の集会は、すべて、無料です。)

めぐみバプテスト教会は、あなたのお役に立ちたいと願っています。聖書は人生のすべての悩み、苦しみに解答を与えています。どなたでも、お越しいただけます。ご来会、ご連絡、心より御お待ちしております。

聖書通信講座のご案内

どなたでも無料で学ぶことのできる聖書通信講座があります。講座は幼児用から大人までのコースです。ご希望の方は、どうぞ、お気軽に当教会まで御連絡下さい。早速、スタートできます。

Tel. 042-372-5693

メール. qrdgp763@ybb.ne.jp

(疑問・ご質問何でも、お問い合わせ下さい)

あとがきにかえて

「めぐみの糧」第10号をお読み、ありがとうございます。今号は「広さ、長さ、高さ」というテーマを取り上げました。

もう少し、十字架に関する聖書のことばを・・・。

「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私がこの世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになつた神の御子を信じる信仰によつてです。」

皆様も、是非、聖書のおことばにお触れください。(湯浅)